

IV 有田振興局

1. 有田地方農業士協議会研修会が開催されました

さる平成 25 年 7 月 12 日（金）に和歌山県果樹試験場において、有田地方農業士協議会研修会が開催され、管内各市町から農業士及び関係者併せて 70 数名が出席した。

研修会ではまず、情報提供として果樹試験場栽培部 鯨主任研究員より「ウンシュウミカンの望ましい水分管理とマルチ栽培のポイント」について説明を受けた。今年も昨年と同様、春先より干ばつ傾向で、熱心な質疑応答が行われた。

基調講演では、講師として県食品流通課 藤木課長補佐と山中課長補佐兼輸出促進班長を迎え、「『おいしい！健康わかやま』イメージ定着への取り組みと有利な販路開拓」と題して講演を受け、意見交換を交えながら研鑽を深めた。現政権が T P P 交渉への参加を表明するなかで、これまでの販売形態に加え、加工食品としての販路拡大、また輸出への取り組み等の検討も必要となっており、今回の講演を企画することとなった。

研修会をつうじて、当日出席した会員からは以下の意見が出た。

- ・かん水の参考になった。
- ・今年のような異常気象時の、きめ細かい対処法等の研究も進めて欲しい。
- ・食品流通課の取り組みについて初めて知った。とても参考になった。
- ・海外もひとつの販路になると思う。
- ・有田はみかん産地だが、和歌山の他産物と一緒に販売してくれているのはとてもうれしく思う。和歌山全体で動いてくれるのは、とてもいいことだと考える。



情報提供



基調講演

2. 平成 25 年度有田地方 4 H クラブ連絡協議会スポーツ交流会を実施

平成 25 年 7 月 10 日（水）に湯浅町民グラウンドにおいて、有田地方 4 H クラブ連絡協議会スポーツ交流会（ソフトボール大会）を開催し、5 つのクラブが参加した。

競技は各クラブ対抗のトーナメント方式で行われ、雲 1 つ無い晴天に恵まれ、夏の日差しが強い中、クラブ員らは交流を深めながら熱心に取り組んだ。また、国際農業交流でインド

ネシアから来日し、有田川町と広川町で研修中のジェニ ザンハリ氏とラフマト氏の 2 名も参加し、クラブ員との交流を深めた。

競技の結果、有田川町 4H クラブ（吉備支部）が優勝し、湯浅町 4H クラブが準優勝、有田市 4H クラブが 3 位となった。

また、7 月 25 日（木）に印南町で開催された日高地方 4H クラブ連絡協議会主催のソフトバレー大会に南広 4H クラブと有田川町 4H クラブ（吉備支部）が参加し、他地域の 4H クラブと交流を深めた。結果は、有田川町 4H クラブ（吉備支部）が 3 位となった。

今後も、農業振興課では 4H クラブ員への活動支援を行い、担い手としての資質向上に取り組んでいく。



開会式



熱戦を繰り広げました



試合風景



3 位入賞

3. 今年も湯浅なす青果の出荷が始まります

さる平成 25 年 7 月 17 日（水）に湯浅駅前多目的広場において、湯浅なす生産者と関係者を含め約 30 名が出席し、和歌山湯浅なす推進研究会が開催された。

今年は管内の 9 名の生産者が、4 月末から 5 月上旬にかけて湯浅なすを定植し、栽培を行っている。7 月に入って、地元の金山寺味噌業者への味噌原料用の果実出荷が始まっているが、昨年から取り組み始めたイオンでの青果販売についても、7 月 23 日より店頭販売を開始することとなった。今年の販売では、昨年度認定を受けたプレミアム和歌山認定商品

であることをPRしていく方向である。

当日は出荷基準を確認するとともに、果実品質の統一を図るための目揃えを行った。その後、場所を湯浅町内生産者圃場に移し、整枝・摘葉方法などについて研修を行った。



湯浅なすの果実



整枝・剪定の研修会

4. 子ども達が昔ながらの白干し梅づくりに挑戦

より身近に実感をもって和歌山の食文化や農業に理解を深めてもらうことを目的に、湯浅町立山田・田栖川・田村小学校の6年生、34名の児童を対象に、7月4日(木)に梅加工体験を実施した。

児童らは、農業振興課職員から梅の栽培や生産状況について説明を受けた後、地元産の南高梅を使って白干し梅と梅ジュースづくりに挑戦した。子ども達は職員の手ほどきを受けながら、ていねいに梅を水洗いし、漬けおけに塩と梅を交互に漬け込んだ。

参加児童からは、「簡単だった。家でも作ってみたい」、「はやくジュースを飲んでみたい」「できあがるのが楽しみ」「和歌山でこんなに多く梅を作っているとは知らなかった」などの感想を聞くことができた。

梅干しは約1か月後の好天が続く日に、天日干し（土用干し）作業をする予定である。



白干し梅づくり

5. 農業士会が地元小学校の児童とミカンの摘果体験で交流

有田みかんに親しみ、ミカン栽培への理解を深めてもらおうと、7月3日（水）に有田市立保田小学校（対象：3年生75人）と7月18日（木）に有田川町立御霊小学校（同：3年生61人）において、ミカンの摘果体験を行った。

はじめに、「摘果はどうしてするのか。」「どんな実をとるのか。」など、有田振興局農業振興課職員から説明し、5名前後のグループに分かれて学校近くの農業士会員の温州ミカン園にて摘果作業を体験した。個々のグループには農業士又は農業振興課職員が1名付き、講師役を務めた。

児童からは「キズの実を見つけたよ。これとったらええんよなあ。」「この小さい実はとっていい？」など、思い思いに摘果する実を見つけては講師役の農家さんに聞きながら体験した。また、摘んだ実を半分に割ってなめてみた児童は、「酸っぱい。」と顔をしかめていた。御霊小学校では、摘果体験の他に摘果のスケッチも併せて行った。

体験終了後、屋内に移動して児童から質問を受けた。「ミカンを作っていて一番嬉しいことは何ですか。」「ミカンはどうして黄色くなるんですか。」などの質問があり、農家さんからは、「皆さんがミカンを食べて美味しいと言ってくれることです。」「ミカンは食べ頃になると美味しそうに見えるように黄色く色づくんですよ。」などと答えていた。

両校とも、秋には黄色く色づいたミカンの収穫体験を計画している。子供たちが農作業を体験することでミカンを身近なものと感じ、たくさん食べてもらえること、さらには将来みかん栽培の後継者となることを期待するものです。



ミカン摘果体験（左：有田市立保田小学校、右：有田川町立御霊小学校）